

入選

じゅう道をとおして知った親切

熊本県 中央小学校

四年 犬塚 蓮

ぼくは、じゅう道をならい始めました。だから、オリンピックが始まると、テレビでじゅう道のしあいをたくさんみました。その中で、一番心にのこったのは、大野将平選手です。大野選手は、金メダルをとりました。その上、大野選手の礼が、とてもきれいだったので、おどろきました。

大野選手は、なぜきれいな礼をするのかというと、

「じゅう道は、相手がいる競技なので、相手をうやまおうと思っていました。だから冷静に、きれいな礼もできたのではないかと思います。」

と、インタビューで答えたことがあるそうです。

「うやまう」というのは、辞典で調べてみると、「相手の人をそんけいすること」と書いてありました。大野選手は、自分がしあいで勝ったときも、いっしょにたたかってくれた相手の人をそんけいする気持ちをもっているのだから、心をこめて礼をしているということがわかりました。

それに、しあいに買ってガッツポーズをする人が、オリンピックの選手の中にもたくさんいましたが、大野選手は、ガッツポーズもしませんでした。もし、ぼくがオリンピックの決勝戦で勝ったら、とび上がって大よろこびすると思います。

でも、大野選手は、自分のことだけを考えているのではなく、しあいに負けてしまった相手のことも考えているのだから、勝っても大さわぎをしないのだと思います。

大野選手のように、自分のことだけではなく相手のことも考えて行動するのが思いやりを持つこと、親切にすることだだと思います。大野選手は、金メダルをとるぐらい強いけれど、初めから強かったわけではないそうです。

きつい練習を続けて、たくさんしあいで負けて、また練習をして強くなっていったそうです。きつい練習や負けるけいけんなどを行っているから、相手の気持ちがよくわかるのだと思います。親切な人というのは、大野選手のように人の気持ちがわかる人だと思います。

ぼくは、じゅう道を始めたばかりです。道場に入る前や、練習やしあいの前に礼をすることを、教えてもらいました。でも、その礼の意味を知らずに、しているだけでした。

オリンピックで、大野選手の礼を見て、礼の意味やしかたなどを知りました。ぼくも、相手の心がわかるような人になりたいです。だから、負けてもあきらめたらだめだと思います。負けたときのくやしさをわすれずに練習して、強くなりたいたいです。

大野選手のように、相手の気持ちを知って、相手がいるからしあいができることに、感しゃとそんけいの気持ちをこめて、きれいな礼ができる選手になりたいと思います。